

制服バンクを活用した新たな子育て支援

～誰もが安心して教育を受けられる社会を目指して～

熊本県立大学/Team Bears(行政学研究室)/

緒續真那 四藤愛梨 西村萌 山崎梨里子

地域課題の選択 ②「市民一人ひとりの幸福度を高めるためのまちづくりについて」

1. はじめに

私たちは熊本市で生まれ育ち、熊本市への愛着を持っている。そこで若者ならではの視点で熊本市民の幸福度について考え、よりよい熊本市を目指すことに貢献したいと思い、本コンテストに参加した。

私たちは幸福度を高めるための施策として、「学校制服や教材のリユース(再使用)」に注目した。教育は、私たち市民が自立し幸福を実現するための重要な基盤であり、家庭の経済状況に関係なく、誰もが安心して教育を受けることのできる環境を整えることは行政にとっても重要な責務のひとつである。実際に熊本市は「だれもが安心して子育てできるまち」を掲げ、街づくりに取り組んでいる。そこで本報告は、義務教育に係る教育費、特に私費負担の実態に焦点を当て、その負担を減らす解決策として「学校制服や教材のリユース(再使用)」を提案する。

2. 現状分析および調査内容

教育を支える費用負担の在り方は、大きく公費負担(教科書や教職員の人件費等)と私費負担(給食費、修学旅行費、制服費、体操服費、カバンや実習教材費等)に分けられる。本報告では、後者の私費負担、すなわち学校教育費の問題について考察する。

(1)現状分析 その1-熊本市にける学校教育費-

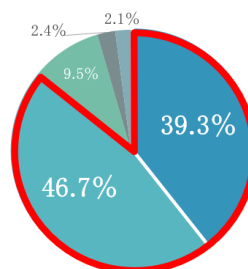
文部科学省の調査によると、大学卒業までにかかる学校教育費の家庭負担額は773万5722円(小学校期:182万1397円、中学校期:137万9518円)であるという。新聞記事によれば、教育費に対して大きな負担を感じる市民は多く、また行政

への期待として教育費支援を望む声も多い。熊本市の就学援助の実態は、中学校の新入学児童生徒学用品費は6万3千円であるのに対して、実際の負担額は公立中学校で平均約10万円とされており、約4万円不足している。10万円の内訳として、大部分を占めるのは制服代8万円であり、特に入学時の費用負担が大きいことがわかる。

(2)現状分析 その2-市民ニーズの調査-

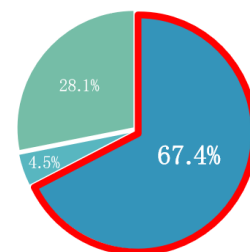
熊本市における現状や市民ニーズを調査するために、帯山・北部・長嶺・三和・託麻中学校の合計5校の保護者に制服や教材のリユースに関するアンケート調査を実施した。調査の結果、制服や教材の購入を負担に感じていると答えた保護者が全体の87%いることがわかった(図表1)。また、制服や教材のリユースの取り組みが実施される場合に利用したいかという質問に対して、67.4%が利用したいと回答した(図表2)。このことから、保護者にとって制服代や教材代の負担は重く、それに伴い制服や教材のリユースサービスの需要もあることを確認することができた。

図表1 中学校で使用する制服や学習教材の購入に関する負担をどの程度感じていますか？



■ 大変負担である
■ どちらかというと負担である
■ どちらでもない
■ どちらかというと負担ではない
■ 負担ではない

図表2 あなたの地域でリユースの取り組みが実施される場合、利用したいと思いますか？



■ はい
■ いいえ
■ わからない

(3)現状分析 その3-既存の取り組み-

制服リユースに関する取り組みの現状を調べるために、学生服等のリユースを行っているショップ「さくらや」にヒアリングを行った。その結果、制服リユース店の認知度が低く、卒業後にその存在を知り、「もっと早く知りたかった」という保護者の声が多いということがわかった。更には行政との連携した取組活動も行われていない。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

(1)課題解決の方向性

制服や教材のリユースショップの認知度を高め、利用者を増加させるために熊本市「制服バンク」制度を作り、誰もが安心して教育を受けることのできる環境を整備する。

(2)制服バンクの仕組み

制服バンクの仕組みは以下のとおりである。なお、本取組は熊本市が行なっている空き家バンクの考え方を参考にした。

■リユース等を実施する事業者が制服バンクに登録してもらう。

■市HP上に制服バンクのサイトを制作し、サイトにて情報発信を行う。

(3)情報発信の方法

サイト上に登録事業者の店舗一覧や位置情報、在庫状況を掲載する。加えて、熊本市の公式LINEでも同様に情報を提供し、認知度の向上を目指す。更には小中学校の保護者の安心メールでも登録事業者情報を提供し、利用機会の増進を図る。

(4)実現可能性を高めるための取組み

実現に向けて取り組むべきことは三つある。一つ目は、民間事業者の調査及び登録の呼びかけである。本取組を実現するにあたって民間事業者の協力は必要不可欠であり、制服や学校教材のリユースの詳しい状況を把握する必要がある。二つ目はサイトの作成である。利用者にとって「見やすい」「検索しやすい」満足度の高いサイトにする必要がある。最後に三つ目は、現場の学校サイドに本取組に対する理解を得て、安心メール等で周知する体制を整えることである。

(5)期待される効果

本取組によって期待される効果は以下の三つである。まず一つ目は制服購入に対する負担感の軽減である。制服バンクの利用者が増加することにより、学校教育費の負担軽減に繋がり、誰もが安心して教育を受けることのできる環境を整備に資する。二つ目は、環境に優しい民間事業者を支援することにより、資源の好循環が期待できる。また、事業者と市が連携することで、サービスの質を高めることができる。三つ目は、リユースによる廃棄衣類の削減である。再利用ができる製品の使用はゴミ削減に繋がり、持続可能な社会に貢献することができる。本取組はSDGsの「1 貧困をなくそう」「12 つくる責任 つかう責任」の取組みの助力となり、保護者だけでなく、子ども達の廃棄物処理問題への当事者意識の醸成ともなる。

4. おわりに-今後の展望-

私たちは、誰もが安心して教育を受けることができる幸福な生活を実現するためには、教育費の不安をなくし安心して子育てができる環境を整える必要があると考えた。私たちの提案する制服バンクがその一助になることを期待する。他方で、リユース=古着という認識を改め、地域に優しい行動であり、持続可能な暮らしをする上で重要な行動であるという意識改革も同時に行なっていくべきであろう。

最後に、本活動に参加したことにより、当事者意識を持って熊本市の今後を考える貴重な機会となった。これからもこのような活動に挑戦し、課題解決能力を身につけ、社会に貢献できるような人材に成長したい。

主要参考文献

- ・熊本市教育委員会事務局 学校教育部 指導課 「就学援助 援助費目」2023/10/2 確認 https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=23738&class_set_id=1&class_id=3
- ・光多制服ヒアリング 9/25
- ・ショップ「さくらや」ヒアリング調査 9/11